

高瀬工業(美唄)

高瀬工業(本社・美唄)は、作業服などを全面刷新し、1日に全従業員へ配布した。高瀬健秀社長自らデザインに関わり、デザイン性と機能性を両立させ、作業環境の改善と企業イメージ向上、他社との差別化を狙う。

作業着は、ユニホームメーカーのHARADA(本社・山口県防府市)と約1年かけて開発。高瀬社長自らがデザインに関わり、落ち着いた色味に近未来要素を加え、オリジナルにこだわった。ラゲ



作業服一式を刷新

ランスリーブに白のバイビンを施し、軽量で伸縮性のあ

発信力強化へ

洗濯後の乾きやすさなど、実用性にも配慮した。

こだわりの作業着を着用する高瀬社長(中央)と従業員ら

前身頃に5カ所の深めのポケットを設け、作業中の使い勝手を向上。裏地にはペイズリー柄を取り入れるなど細部にもこだわった。北海道地区をあしらったワッペンを高瀬社長自らデザインし、「美唄から誇りあるものづくりを発信する」との思いを込めた。

(有見沢)

美唄の高瀬工業

軽くて動きやすい

新制服導入で活力

【美唄】高瀬工業(高瀬健秀社長) 〓市宇茶 動きやすいのが特色。志内〓は1日、新しいデザインも洗練されており、「働くのが楽しく制服を導入した。ポリ



新制服を導入した高瀬工業

【美唄】高瀬工業(高瀬健秀社長) 〓市宇茶 動きやすいのが特色。志内〓は1日、新しいデザインも洗練されており、「働くのが楽しく制服を導入した。ポリ

なる」と社員から好評だ。東京のアパレルメーカー「HARADA」

と約1年かけて共同開発。従来の綿素材の制服は吸湿性が高く、汗を吸うと重くなりやすいのが欠点だったが、ポリエステルにすることで解消した。

デザインは濃紺とライトグレーのツートンカラー。ワッペンやポケットの位置など高瀬社長が自らアイデアを出し、同社と試作を重ねて完成させた。近末

来を想像させるデザインを追求したという。社員からは「今までの制服は重くて肩が凝ったが、新制服は軽くて動きやすい」と明るいイメージ」と好評。同じデザインの防寒ジャンパーや濃紺のパーカー、帽子も製作し、高瀬社長は「仕事の能率も高まれば」と期待した。

(佐藤直幸)

機能的な作業服に一新

建設業の社員の声に応え導入 高瀬工業 ユニホームを一新



リニューアルしたユニホーム(右2人目が高瀬社長)

【美唄】建設業の高瀬工業(高瀬健康社)は、職員の制服に当たる作業用ユニホームを一新した。ネイビー色を基調としたお洒落なデザインに、ポケットの位置を機能的に配置したほか、袖や襟の裏地には、ポリエステル柄の生地をとがることができるパーカータイプのユニホームも新たに用意した。高瀬社長は「今後は、防寒作業着はネイビー色に統一。作業服は薄くて伸縮性に優れたジャージー素材を採用している。右胸と左袖にペン差しポケット、腹部など4カ所に開口部を広くしたポケットをつけるなど機能的なデザイン。ポケット上蓋の左胸に会社のマーク、右袖には創業年やメッセージなどをデザインした田形のワッペンをつけている。パーカーは、社外での打ち合わせなどがないなど、状況に合わせてユニホームに響くことができるユニフォーム

【美唄】建設業の高瀬工業(高瀬健康社)は、職員の制服に当たる作業用ユニホームを一新した。ネイビー色を基調としたお洒落なデザインに、ポケットの位置を機能的に配置したほか、袖や襟の裏地には、ポリエステル柄の生地をとがることができるパーカータイプのユニホームも新たに用意した。高瀬社長は「今後は、防寒作業着はネイビー色に統一。作業服は薄くて伸縮性に優れたジャージー素材を採用している。右胸と左袖にペン差しポケット、腹部など4カ所に開口部を広くしたポケットをつけるなど機能的なデザイン。ポケット上蓋の左胸に会社のマーク、右袖には創業年やメッセージなどをデザインした田形のワッペンをつけている。パーカーは、社外での打ち合わせなどがないなど、状況に合わせてユニフォーム

△として新たに作ったもの。左胸と右袖の2カ所にマークを刺しつけている。防寒作業着も軽くて動きやすく、保温性の高きなどで最新の素材を使ったものに変更した。新しいユニホームについて高瀬社長は「働きやすい環境づくりにもつながる取り組み。今後も声を聞きながら必要に応じた改善をしてい」としている。

【新田二寛】